



# 接種ストレス関連反応 (Immunization Stress-Related Responses: ISRR) についてご存じですか?

他のワクチン でも

婦人科部長 衛藤 貴子

予防接種後にはさまざまな有害事象が報告されています。原因として、ワクチンの成分、品質面の欠陥、接種手技などによるものがありますが、そのほかに「不安」なども含めたストレスにより生じる反応があると報告されています。WHOは2020年1月に接種ストレス関連反応という概念を提唱しており、ここに紹介いたします。(https://www.who.int/publications/i/item/978-92-4-151594-8)

## # 予防接種と biopsychosocial model

ストレスに対する個人の反応は、身体的因子、心理的因子、および社会的因子が複合的に絡みあって生じた結果であり、これを多元的にとらえる枠組みが biopsychosocial model です(下図)。

	生物学的要因	心理的要因	社会的要因
接種前 (素因)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢</li> <li>遺伝</li> <li>低いBMI</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>針への恐怖</li> <li>ワクチン、薬剤への不安</li> <li>急性ストレス反応の既往</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族・友人・メディアから受けるネガティブな情報</li> <li>ネガティブ事象の目撃</li> <li>接種に否定的な思想・信条</li> </ul>
接種時 (促性要因)	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>長時間の立位</li> <li>血管迷走神経反射</li> <li>痛みの経歴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思い込み</li> <li>恐怖</li> <li>痛みの経歴</li> </ul>
	集団	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の人の目にどう映るか、また保健衛生当局の方針についての心配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療関係者の態度や言動</li> <li>痛みについての説明</li> </ul>
接種後 (持続要因)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレス反応の継続</li> <li>視床下部-下垂体-副腎系系*の鋭敏化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の身によくないことが起きているという疑心暗鬼</li> <li>恐怖</li> <li>身体反応への過剰反応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療関係者・家族・親しい人の態度や言動</li> <li>メディアの情報</li> </ul>



## # ISRR の分類

日本産婦人科医学会 研修ノート NO.106 思春期のケア より一部改変

ISRRには大きく二つに分けられ、急性反応ではアナフィラキシー反応との鑑別、遅発性反応では器質的疾患の除外が必要です。

急性反応 (接種前から接種時・接種直後)	遅発性反応 (接種後 数日程度経過してから発症)
<p><b>狭義の急性ストレス反応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頻脈、動悸</li> <li>息切れ、過換気</li> <li>冷感</li> </ul> <p><b>血管迷走神経反射</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>徐脈、血圧低下</li> <li>めまい</li> <li>失神</li> </ul>	<p><b>解離性神経症状反応(DNSR: DISSOCIATIVE NEUROLOGICAL SYMPTOM REACTIONS)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>脱力、麻痺、言語障害</li> <li>不自然な動きや姿勢、不規則な歩き方、心因性非てんかん発作</li> </ul>

https://www.who.int/publications/i/item/978-92-4-151594-8 より作成

## # ISRR の予防のために

私たち医療従事者は、ISRR の概念を知り、痛みそのものを軽減する接種手技とともに、接種前後に被接種者・保護者の不安・恐怖・緊張を緩和するよう努めることが大切です。

- 具体的には、
- 問診などで ISRR 発症のリスク因子を確認
  - リスクの高い人には、仰臥位や局所麻酔薬を使用しての接種、筋緊張法の併用
  - 十分な理解の上での接種(ワクチン接種でどのようなメリットがあるのか、どんな症状が起こりうるのか、接種後に症状がでたらどうしたらよいかなどについての説明、質問をうけての理解度の確認 etc)

## # 接種後に症状が生じた場合は

接種後に体調の変化が生じた場合には、まずは接種医やかかりつけ医が診察をおこなってください。

HPV ワクチン接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関が選定されており、状態に応じて紹介を検討してください。

厚労省はリーフレット「医療従事者の方へ」を作成し、周知をはかっています。

お問い合わせは婦人科外来まで



https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000901222.pdf

https://www.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20150819\_hpv.pdf